四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol 20

水環境ダムの創設を

香川県　仲南町長

千葉（ちば）　宗和（むねかず）

仲南町は財田川、金倉川の最上流域に位置し、清流の恵みを受けて営んでいる農業が基幹産業の小さい町である。

戦前戦後の物資が乏しい折、幼少期を過ごした私の唯一の遊び場は川であった。讃岐は降水量が少なく河川は短小で、雨が降ると一気に海へ流れてしまうが、川の蛇行した所には水深1～2mの水溜りができ、そこにはアカマツやメダカをはじめウナギ、ドジョウ、カニ、エビ、フナ、コイなどや時期によってはアユも数匹生息していた。

夏には格好の泳ぎ場になり、春から秋には魚を獲ったり、砂地で相撲に興じたり、石を積んで陣地を造り居場所にして遊んだものである。

こんな遊びから私の特技は素手で魚を捕獲する技であり、山間の上流でアメゴやニジマスを掴んで周囲を驚かしたことがある。

しかし、社会の進展とともにダムが建設され、河床整備が進められて水溜りは少なくなり、雨が降らないと流れる水はなく、生息していた魚の種類はめっきり減少してしまった。

近年、本町では上流域の役割として生活排水等の処理に合併浄化槽事業を促進しており、普及率も60%を超え、川の水質は相当回復してきた。

だが、今、環境の世紀を迎え、より多種多様の生物が繁殖できる条件整備が求められている。

そこで、ITやセンサーの機能を生かし、中下流域の水量が少なくなれば、自動的に放流が行われ河川を潤すようなダム…「水環境ダム」の創設を夢見ながら各方面へ要請している此頃である。

野口ダム